GAKUEN NEWS

学校法人 大阪初芝学園

【発行】大阪初芝学園 教学部　http://www.hatsushiba.ed.jp
〒599-8125 大阪府堺市東区西野194-1　TEL:072-239-5551　FAX:072-235-6665

〔2014.10.23〕第008号

大阪初芝学園　特別公開講座2014

自立できる18歳を育てるために

～中高一貫教育が目指すもの～

基調講演

子どもたちが、これからのグローバル社会で活躍するには、自ら考え、創造していく力が欠かせません。今回はその視点から特別公開講座を開催いたしました。基調講演に荒瀬克己氏をお招きし、その後、学園小中高の校長との座談会を行いました。

プロフィール　荒瀬 克己氏

1953年生まれ。京都教育大学卒業。京都市立堀川高校長、京都市教育委員会教育企画監を経て、2014年4月から大谷大学文学部教授。中央教育審議会委員、独立行政法人国立高等専門学校機構監事や京都市教育委員会指導部顧問などを務めている。

◆子どもの小さな疑問に寄り添う

「1492年に□大陸を発見したのは□である」。この問題の空欄にはそれぞれアメリカとコロンブスを入れるところを、後の空欄に「すごいこと」という言葉を入れた小学生がいました。理由は、アメリカ大陸発見はコロンブスではないように聞いたからだそうです。そこで、先生が一緒に調べると、「アメリゴベスプッチ」の存在など、様々なことが分かってきたのです。

学校は一定のスピードで進む必要や、効率的な学習をするための共通の決まり事もあります。その中で、疑問をもった子どもに寄り添う丁寧さが、最近大切にされていないのではないでしょうか。教師に限らず、保護者の方も子どものちょっとした疑問に気付いてやらないと、その疑問は無用なもの、無駄なものと心に刻まれてしまいます。

正解がないところからあらたなチャンスが生まれるのが実社会だと考えると、子どもにどんな力が必要かをあらためて考えなければなりません。

◆体験を言語化する

人間の記憶には、「長期的記憶」と「短期的記憶」があります。テストのために覚える記憶は、「短期的記憶」ですが、時間と共に忘れます。一方、体験などによる「長期的記憶」は、考え方や身のこなし、心向きなどに影響を与えます。生きていく上で「短期的記憶」も必要ですが、自立していく上では「長期的記憶」が最も大切です。

様々な体験は、時間とともに記憶から薄れていきます。しかし、その体験を言葉にすると、経験値となって残ります。志望校に合格する生徒は、自分の体験を言語化できる共通する類型があります。

体験を言語化すると、なぜ、自分はそう思ったのかを考え、自分で自分を律することにつながります。自立を促すきっかけとして、家庭でも子どもたちが体験できる環境をつくることが大切です。

◆グローバル社会に生きるということ

「みんなちがって、みんないい」という金子みすゞ氏の有名な言葉がありますが、正直な気持ちは、平田オリザ氏の「みんなちがって、たいへんだ」です。みんな違うということは、現実には避けられず、それをどう受け入れ乗り越えていくのかがグローバル社会を生きていくことです。「それぞれの存在を認めること」と「それぞれの存在に即した対応」は大切だが難しい。一筋縄ではいかないグローバル社会は、学校も職場も同じです。子どもたちはその中で試行錯誤しながら成長します。

「グローバル・コミュニケーション・スキル」は、英語力ではなく、異文化理解能力（合意形成能力・人間関係形成能力）です。異なる背景をもつ個人や、組織の間で妥協点（一致点）を見出す力です。

コミュニケーション能力を養うには、「伝わらない」と感じる経験が必要です。そこから「伝えたい」という思いが生まれます。親が、提案型の問いかけをすると、子どもたちの言葉を奪い取ってしまいます。「伝わらない」という想像を超えたグローバル社会で将来生きていくためにも、子どもたちは不便を感じる経験が必要です。その芽を摘んでしまうような愛情のかけかたには気を付けなければなりません。

◆かっこいい大人を見せること

213万人。この数は無業者の若者（19～39歳）の数で、単純に全国の高校の数から換算すると、毎年一校あたり20人の無業者を卒業させている計算になります。我々はこれだけ多くの働かない若者を生んだ大人として、反省しないといけません。

キャリアとは、「働くこと」「生きていくこと」すべての生活を含みます。モデルを示すことがキャリア教育では大切で、社会はその働くモデルを見せているか、つまり、かっこいい大人を見せているかということになります。

大人に守られている子どもの間に、少し危険なこと、不安なこと、複雑なことを体験させ、子どもが成長していく様子を見守ってあげる。それができる大人がかっこいいのではないでしょうか。ご清聴ありがとうございました。

初芝×立命館

立命館コースまるわかり説明会

日時 11月7日(金) 18:00～19:30

場所 立命館 大阪梅田キャンパス 大阪富国生命ビル5階

要申込

主催：大阪初芝学園　協力：立命館大学・立命館アジア太平洋大学

2015年4月開設

立命館大学 大阪いばらきキャンパス

※パースは2013年11月の検討段階のものです。

大阪初芝学園　特別公開講座2014　校長座談会

自立できる18歳を育てるために

～中高一貫教育が目指すもの～

各校の特色と魅力

荒瀬 氏
それではまず、先生方から各学校の紹介をお願いいたします。

高橋校長（初芝立命館中高）
本校の特徴は、立命館大学、立命館アジア太平洋大学との提携があることです。提携と言っても単に推薦枠があるだけではなく、グローバル人材、理数系人材の育成に向けて、沢山の連携プログラムがあります。
来年度から中学に、新しくアドバンスト立命館コースをつくり、中高一貫の少数精鋭で難関国公立・医歯薬系大学合格を目指します。

坂本校長（初芝富田林中高）
本校は昭和59年に進学校として開校以来、今年で31年目になります。生徒にとって、学校生活が大学進学への単なる通過点ではなく、二度とない彩り豊かなものに充実させることに全力を注いでいます。
6万㎡におよぶ自然豊かな学習環境と31年間築き上げてきた学びの文化があります。また、あらゆる教員によるきめ細やかなサポートも行っています。

初芝富田林中学校・高等学校　校長
坂本 守孝

飯田校長（初芝橋本中高）
中学・高校のそれぞれコースを改編し、学校を改革しました。
本校の教職員は熱心で、学習・生活面すべてにおいてきめ細やかな指導を行っています。クラブ活動も盛んで、インターハイに多くのクラブが出場しました。高校野球も和歌山県の新人戦で優勝するなど、文武両道の学校です。

小山校長（はつしば学園小）
特徴の一つ目として、3中学校へ有利なかたちで進学が可能であるということです。そのサポートとして、進学対策ゼミを開講し、授業の中で対策を行っています。さらに、希望者を対象とした放課後学習指導も実施しています。
二つ目は、人づくりとして先を見通した教育の取り組みをしています。百玉そろばんなどの集中力を養う右脳教育に取り組んでいます。そして、グループペア学習を行っています。子どもたちの違いを活かして学び合い、お互いを高め合う取り組みによって、より理解を深めることができます。

自立につながる取り組み

荒瀬 氏
それぞれの学校をご紹介いただきましたが、自立につながっていると思われる取り組みや、自立についてご自身のお考えなどをお願いいたします。

初芝立命館中学校・高等学校　校長
高橋克夫

高橋
人間は人との関わりの中で生きており、社会人としての資質やスキルを身に付け、時代の変化に対応できることが大事だと考えています。
具体的な取り組みとして、10分間の朝読や1週間のスケジュールを手帳に書かせています。さらに今年度から、中1、高1で日本語文章講座を開講しました。添削は本校の教員が行っています。

荒瀬 氏
忙しい中で自校の先生方が日本語文章講座の添削をされているのには感心しました。

坂本
大学受験というのも自立に向けた一つのプロセスだと考えています。子どもたちが、夢と希望を持って大学進学を目指す。自らの目標を現実化するために、自ら計画し実行することが、将来自立につながると考えています。
子どもたちを良い方向に導く魔法の言葉などはありません。何がきっかけで良い方向に導けるかを常に腐心し、子どもたちのやる気を引き起こすための色々な仕掛けを行っています。

荒瀬 氏
学校というのは、やらないことを見つける天才で、今までそんなことをやっていない、その効果が分からないということが多い。しかし、とにかくやってみようという発想をもっている。楽をせず、上り坂をあえて選んでいる。組織というものは作り続けないといけません。結果はすぐにはでなくても、とりあえずやってみるという意識は大切です。大学受験を受験としてとらえていないところが素晴らしい。

初芝橋本中学校・高等学校　校長
飯田 昌彦

飯田
親としての子育ても、教員の教育活動もすべて子どもが自立するためだと思っています。赤ちゃんがハイハイするようになるのも、泣きながら幼稚園バスに乗ることができるようになるのも、進学も、家庭を築くことも、全て自立であり人間にとっては年齢ごとに自立することが永遠のテーマではないかと考えています。

自分の進路を考えるために、毎日、新聞記事を読む取り組みを行っています。各教員が選んだ新聞記事から一つ、毎朝生徒に配布。それを放課後までに読んで印象に残った箇所にアンダーラインや記述をし、提出します。いろんな教員が選ぶことにより、より一層社会的な視野や知識の幅が広がります。また、豊富な語彙・読解力を養うために、新聞のコラムを全部ひらがなで表記した文章を配布し、繰り返し読み、漢字かな交じりの文章に変換していく取り組みを行っています。

コーディネーター
荒瀬 克己 氏

荒瀬 氏
自立の支援に、新聞を上手く使っておられる。特に、ひらがな表記のコラムを漢字かな交じりに変換するというのは、かなり力が付くのではないでしょうか。手間はかかるが非常に効果的な取り組みに感じました。

小山
基本的な学びとして、基礎学力・英語教育・幅広い体験学習・しつけ教育に取り組み、学習・生活面での自立を目指しています。さらに、理科教育・国際教育を充実させ、中でも英語教育を積極的に行っています。
また、1～6年生までの縦割りの活動をしています。学校全体での遠足や、各学年を交えた活動を通して異年齢同士の子どもたちが、協力しながら学んでいます。
また日々の授業では、児童がグループで交流しながら助け合い、学び合っています。そこから、それぞれのものの見方、考え方を発見していきます。それが自立に向かう一歩だと思っています。

小中連携へ向けて

荒瀬 氏
中学校にどうつなげていくかも含めて、子ども同士、つなぐこと、かかわりを持たせるために色々な仕掛けをされています。学園の小中連携に向けたお考えをお聞かせ下さい。

小山
理科・国際教育を中心に中学とつなげていけるのではないかと思っており、委員会を発足させ、現場活動を通じて生み出していきたいと思っています。

高橋
学園小学校は英語教育に力を入れており、それを継続しさらに伸ばしていけるようにしていきたい。そのために本校ではカリキュラムの連続性も含めて考えていこうと取り組んでいるところです。

荒瀬 氏
京都の小中一貫校でも、学校段階でのギャップを乗り越えていくためにはどうすればよいかを色々と考えられている。そもそも、小学校の先生と中学校の先生とは考え方に大きな違いがあり、学級担任制の小学校と教科担任制の中学校では、噛みあわない部分が多い。それをどう乗り越えていくかというところでかなり議論が交わされています。

坂本
やはり、内部進学で入学した生徒は学園の風土文化に慣れていて、本校の文化に溶け込むのも早い気がします。入学後も学校の中心となり活躍しています。

飯田
小学校と中学校とは入学前より交流があるので、中1ギャップというのは回避できているのはないかと思います。

荒瀬 氏
日本の教育は、従来の学校制度を越えた改革がますます進んでいくと思われます。とにかくやってみるという意志がある大阪初芝学園の校長先生方から、小中の取り組みを積極的に全国へ発信していただけたらと思います。

最後に一言

はつしば学園小学校　校長
小山 久子

小山
ご自身と子どもを信じて下さい。子育て本ではできない、目の前の子どもとの子育ては自分でしか作れない。学級づくりは担任と児童でしか作れないのと同じ、保護者と子どもそれぞれで子育ての方法を編み出していかなければ、育たないと思います。私たちも子どもたちを信じて一歩一歩進んで参ります。

飯田
中学時代は、外見は大人びてくる時期ではあるが、心の成長はなかなかうまくいかない。自我と社会規範との軋轢などで、思い悩み反発もする時期です。何をやったらいいかわからないという生徒には、何かに打ち込むことで見えてくるものがあると思います。本校でもやる気を引き出すために様々な仕掛けを用意しています。自分にピッタリな生き方が見つけられると思います。恐れずに一歩を踏み出してください。

坂本
子どもはあくまで子どもであり、素直な、コツコツ努力できる子どもであれば、教職員と手を携えて共に育っていきたい、その手助けをしていきたいと思っております。是非本校にお越しください。

高橋
高校には立命館コースと切磋琢磨するグローバルコースがあります。グローバルコースの生徒たちは高い志を持ってチャレンジし、進学実績も伸ばしています。生徒の自主性を尊重し、自分たちで考え、チャレンジできるような環境づくりを目指しています。

荒瀬 氏
教育に対するお考えを伺い、先生方の熱い思いや個性が随分と発揮され、示唆に富んだ内容となりました。それぞれにかっこのいい大人の姿をみせていただいたと思います。長時間ありがとうございました。

はつしば学園幼稚園

春の遠足

本園では、自然とのふれ合いを大切に、保育を行っております。そのため、毎年、春の遠足は、和泉体験農園『農の里』にいちご狩りに出かけています。幼稚園に大きな学園バスがやってくると、子どもたちは目を輝かせながら乗り込み、甘い苺に期待を寄せながら出発しました。先生やお友達とレクリエーションを楽しみ、あっという間に農園に到着。農園の方に苺の摘み方や品種などのお話をしていただき、いよいよいちご狩りのスタートです。子ども達の小さな手には驚くほどの大きな苺。口の周りを真っ赤に染めながら、とびきりの笑顔でほおばっていきます。甘酸っぱい実とさわやかな香りを堪能してきました。

又、花から実を付け熟していく苺の色の変化や、葉っぱの形、花粉を運ぶミツバチの存在など、沢山の発見と学びがあり、良い収穫体験となりました。

避難訓練

9月に消防署の立会いのもと、地震と火災を想定した避難訓練を行いました。地震が起こった時、机の下に身を隠すこと、防災頭巾を被ることで安全を確保します。その後の火災発生のサイレンでは、先生の指示に従い、速やかに園舎の外に避難開始。避難する際の約束『おはしも（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）』をしっかり守り、慌てることなく訓練に参加できました。

消防署の方から訓練の総評を頂き、その後は消防車の見学です。本物の消防車を前に、ホースやメーターなどの機器に興味津々の子ども達は、積極的に質問をし、感心していました。

又、DVD教材を鑑賞し、地震・火災時どう行動すればよいか、『命を守る』ことについて真剣に考え、防災意識が高まりました。本園では、今後も安全・安心の確保を目指した取り組みを進めて参ります。

初芝スイミングスクール

活躍するスクール生たち

選手コースで日々トレーニングを行っている選手が今年の大阪、近畿、全国の舞台で活躍しています。今年度は昨年度以上の選手が近畿中学校水泳競技大会、全国中学校水泳競技大会、日本高校選手権水泳競技大会、日本学生選手権水泳競技大会、全国JOCジュニアオリンピック夏季大会、国民体育大会などに出場し、入賞しています。また、10月に行われる全国ブロック対抗水泳競技大会に近畿ブロック代表選手として、初芝立命館中学校2年生の安芸君を含む2名が選出されています。

定期コースでは、今年も6月1か月体験、7月夏休み短期教室を行い、2歳以上の幼児を含む初心者への指導も行っています。これからも多くの笑顔を見れるようなイベントや行事を展開していく予定です。

初芝立命館中学校
平成27年度から アドバンスト 立命館コース誕生！

初芝立命館中学校は、平成27年度からコースを一新し、新たに生まれかわります。少数精鋭で、難関国公立大学、医歯薬系大学進学を目指す「アドバンスト立命館コース」、立命館大学・立命館アジア太平洋大学で創造的な学びができる力を養う「立命館コース」、個性に応じて進学選択に幅をもたせた「セレクト・アカデメイアコース」の3つのコースとなります。

詳しくは初芝立命館中学校HPをご覧ください。

http://www.hatsushiba.ed.jp/ritsumeikan/jh/

初芝富田林中学校高等学校、初芝橋本中学校高等学校
平成27年度からスクールバスの新ルート開設！

平成27年度から、初芝富田林は金剛ルート（南海高野線金剛駅）、初芝橋本は岩出ルート（JR和歌山線岩出駅前）を、新たに運行いたします。学校までの直通バスで、アクセスがより便利で快適な通学ができるようになります。詳細は、各校HPをご覧ください。

初芝富田林中学校高等学校HP
http://www.hatsushiba.ed.jp/tondabayashi/

初芝橋本中学校高等学校HP
http://www.hatsushiba.ed.jp/hatsuhashi/

平成27年度 大阪初芝学園 入試スケジュール

	高等学校			中学校			小学校
	初芝立命館高等学校	初芝富田林高等学校	初芝橋本高等学校	初芝立命館中学校	初芝富田林中学校	初芝橋本中学校	はつしば学園小学校
入試説明会 個別相談会 個別見学会	平成26年 12月6日（土） 14:00	平成26年10月25日（土） 14:00 平成26年11月29日（土） 14:00 平成26年12月13日（土） （個別見学会）※要申込	平成26年 11月8日（土） 14:00 平成26年 11月30日（日） 14:00	平成26年 11月29日（土）14:00 （プレテスト個別相談会）	平成26年11月1日（土） （プレテスト個別相談会） ※要申込 平成26年11月22日（土） （個別見学会） ※要申込	平成26年 11月8日（土） 9:00 平成26年 11月30日（日） 14:00	【第1回入試説明会・授業体験】 平成27年 3月21日（土） 10:00
入　試　日	平成27年 2月10日（火）	平成27年 2月10日（火）	【A日程】 平成27年 1月31日（土） 【B日程】 平成27年 2月14日（土）	【A日程】平成27年 1月17日（土）午前 ※一般入試・きらめき入試 【B日程】 平成27年 1月17日（土）午後 【C日程】 平成27年 1月18日（日）午後 【D日程】平成27年 1月31日（土）午前 ※きらめき入試	【一次A】 平成27年 1月17日（土）午前 【一次B】 平成27年 1月17日（土）午後 【III類選抜】平成27年 1月18日（日）午後 ※III類のみ 【二次】 平成27年 1月19日（月）午前	【A1日程】 平成27年 1月17日（土）午前 【A2日程】 平成27年 1月18日（日）午後 【B日程】 平成27年 1月20日（火）午前	【2次・転入学1次】 平成26年 11月8日（土） 【転入学2次】 平成27年 1月31日（土） ※2月以降随時 【3次】 平成27年 2月3日（火）

Editor's Note

第8号をお届けいたします。今回は先日行われました大阪初芝学園　特別公開講座2014「自立できる18歳を育てるために～中高一貫教育が目指すもの～」の荒瀬克己氏の講演と本学園の各校長による座談会を特集記事にいたしました。自ら考え行動する、自立した人間に子どもたちを育てるにはどうすればよいか、という視点で、荒瀬氏の示唆に富んだお話や各校での自立に向けた取組みを紹介いたしました。